

## 非思量

NO. 259

## 観世音

『延命十句観音経』を学ぶ その2

皆さんが観音さまと呼ぶ仏さまの正式な名称は観世音菩薩です。

「観世音」とは「世の音を観る」と書きます。

その中の「観」には、「よく見る」「念を入れて見る」という意味があります。仏教学では「真理を観ずること」「心静かな境地で、世界のありのままの境地を正しく眺めること」さらに「考究すること」「智慧をもって物事の道理を観知すること」という意味もあります。

駒澤大学で教鞭に立たれた山田霊林教授は、この深い意味をもった「観」の目をもつことが大切だとおっしゃいました。

山田教授が学生に教えた言葉に「観達」があります。「観達」とは、物をしっかり見ることによってその物と一つになりきることです。

「幼児が庭でころんで膝に怪我をすると母親のひざが痛む」これが観達の世界だと説明されました。

観世音菩薩（観音さま）は、世の一切の音声（おんじょう）を観て取り、救ってくださる菩薩さまです。大小にかかわらず、遠くても近くても、陰日向なく、右に左に、余すところなく、常に深いまなざしをそいでくださっている菩薩さまです。この世界に観世音菩薩のいらっしやらないところは、ただの「一か所もない」ということです。そればかりでなく、私たちの苦しみ悲しみの全部を知ってくれているのですから、まさに『世音を観る菩薩さま』なのです。

観世音菩薩は私たちのさびしさをちゃんと知っていて、分かってくれる仏さまなのです。

ですから『延命十句観音経』の「観世音」とは自分の中にある観音さまに呼びかけることでもあるのです。

さびしいとき

金子みすゞ

わたしがさびしいときに、  
よその人は知らないの。わたしがさびしいときに、  
お友だちはわらうの。わたしがさびしいときに、  
お母さんはやさしいの。わたしがさびしいときに、  
ほとけさまはさびしいの。